



年 頭 所 感

PC 建築部会会長

山田 恒太郎

安藤建設株式会社 代表取締役社長

平成21年度の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様には平素よりPC建築部会活動に多大なご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、金融危機が各国経済を下押し、世界同時不況の様相が広がる中、我が国経済は景気後退局面に入り、先進国全体で戦後初のマイナス成長に陥るとの観測も浮上しております。こうした中、多くの企業が減産と設備投資の先送り等々を決断するなど、大変厳しい状況となっており、一日も早い景気回復を願うとともに、業界全体でこの難局を乗り越えるべく総力を上げて取り組まなければならない思いを強くしております。

このような状況の中、我々PC建築部会は、PC工法による集合住宅をはじめとする各種建築物の高品質、高規格を目指した技術の研鑽をさらに推進すること、そして地球環境保護の観点からも、工業化建築を通して、豊かな社会の実現に寄与していくことが、重要な使命であり、責務であると考え、活動を展開しております。

現在、部会活動のメイン事業として取り組んでおりますPC部材品質認定事業は、品質認定制度に基づき、国内39工場を認定しております。認定を希望される工場も年々増加傾向にあり、PC部材における品質確保の重要性が認識されてきているものと考えております。また近年、海外で製造されたPC部材の国内利用が多くなり、その取扱について国内法との整合性の面で、行政サイドで苦慮されております。こうした実情から、この認定制度を海外のPC製造工場に適用すべく事業委員会の中に特別プロジェクトを立ち上げ、今年4月の申請受け付けを目指しその実務に入りました。

次に、構造審査事業に関しましては、年々審査案件が減少傾向にあり、委員会としての存続が危惧されているところではありますが、専門委員の活動は現

在、要求が増えつつある耐震調査・診断について検討を開始しております。プレハブ建築協会一級建築士事務所には、工業化工法に精通した専門技術者としての能力が期待され、すでに100棟を超える耐震調査の依頼があります。耐震改修の受け皿としてこの委員会が担う役割は大変大きいと言えます。

また、PC工法施工管理技術者資格認定事業は、制度発足以来3年が経過し、現在、500名の技術者に対しその資格を認定いたしました。今年2月に第3回目の講習・試験を実施する予定であり、今後もPC工法建築に関する技術者の育成に努めていきたいと思っております。

更に分科会は以下の項目をテーマとし活動しております。

- ・PC工法による耐震補強の提案
- ・長期優良住宅（200年住宅）促進に向けた工業化工法の提案
- ・プレキャスト・プレストレスト構造建築物の普及、促進
- ・WPC住宅ストック高度利用促進技術開発に関する技術協力
- ・高強度PC部材に打込まれた外装タイルの追随性の研究

このような活動を通して、会員の皆様と共に業界の地位向上に向けて邁進する所存でございますので、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

先行き不透明感が増す景気の動向や、建築業界を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中で、対処しなければならない課題も多くございますが、この状況を乗り越え、確かな展望が実感できる年となります事を心より祈念いたしまして年頭のご挨拶といたします。